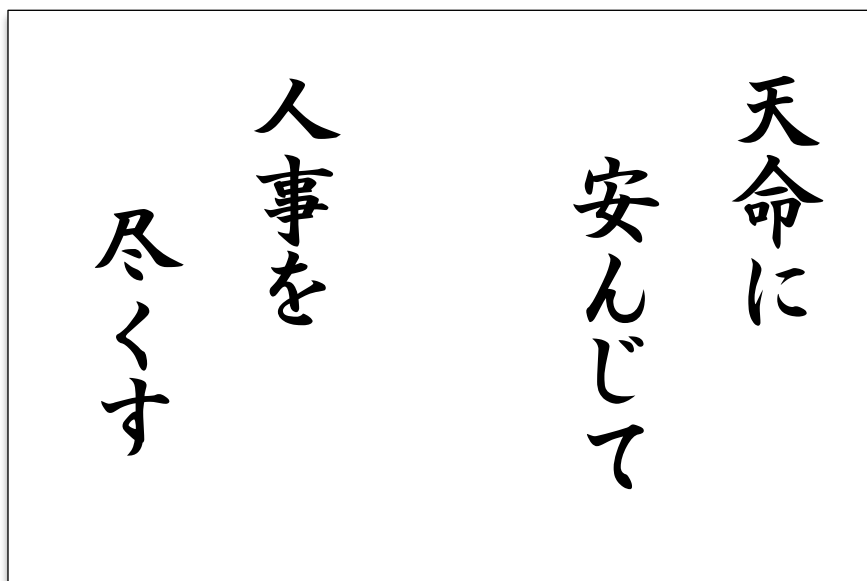


掲示板のことば



2018. 02

この言葉は、明治時代の思想家であり、真宗大谷派の僧侶でもあった、清沢満之（きよざわまんし）という方が遺した言葉です。

「人事を尽くして 天命を待つ」という言葉はよく聞きます。やれるだけのことはやったのだから、あとのことは、どうなろうと天が決めることだと、そのような意味でしょうか。

でも、それでは、結果は運任せ、神頼みということになってしまって、せっかくの努力が報われないと思うこともあります。

清沢満之という方は、浄土真宗の信仰を持っておられました。ここで言われている「天命」とは、「他力」のことを言い表しています。つまり、この言葉は、清沢満之の信仰を表現しているのです。

それは、阿弥陀如来の真実の「はたらき」に安んじている、ということであり、その「はたらき」に安んじることによって、いよいよ自力を尽くすことができるのだと言われているのです。

努力することは、自力だと言って非難されることはありません。私たちは、どんな時でも自力を尽くすしかないのでしょう。でも自力を尽くすことが、「おかげさま」と感謝できるとき、今を「ありがたい」と感じることもできるのでしょう。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹